

ふたたび台湾に赴任して

(公財) 交流協会高雄事務所長 中村隆幸

この度、(公財)交流協会高雄事務所長を拝命し、3月末に高雄に着任いたしました。私は今から約35年前の1977年10月から1980年2月までの2年3か月余りの間、当交流協会台北事務所に勤務しておりましたので、今回の高雄勤務は2回目の台湾勤務となります。私にとってこれまでの約20年を超える海外勤務の最初の任地が台湾・台北であったこと、また、その折に多くの台湾の方々の暖かい人情に触れさせていただいたこともあり、台湾は私にとって『第二の故郷』のようなものであり、今回高雄で勤務させていただくこととなり望外の光栄であり嬉しく思っております。

私が台北に勤務させていただいたのは台湾における戒厳令が解除される10年ほど前の時期にあたります。その間に1977年11月の中壢事件、1978年5月の蔣経国国民党主席の総統就任、1979年1月の米台断交、同年12月の高雄での民主化を目指す人々のデモ隊と警官隊が衝突した美麗島事件が起きるなどいろいろなニュースがありましたが、台湾全土の治安は極めて良好に保たれており市中には活気が溢れていたように思います。

前回台湾に勤務させていただいた当時を含め高雄にはこれまで数回訪問の機会に恵まれました。今回高雄に赴任し市内をゆっくり散策したところ、当然のことではありますが市中には見違えるような立派な高層ビルが立ち並び、タクシーをはじめ自動車が綺麗になり高級車も多く見掛けられ、また、「愛河」という美しい名称の運河は以前は汚染が酷く時には悪臭を放つこともあったため「臭河」と揶揄する人もいましたが、現在は相当改善され観光客を対象とした遊覧船の営業が行われ

るようになるなど市内全域が見違えるほど綺麗になり、台湾の素晴らしい発展振りを見せていただいております。また、市内には以前にも増して明るい雰囲気、活気が漂っているように感じられます。

私ども(公財)交流協会高雄事務所は台湾南部地域の高雄市、台南市、嘉義市、嘉義県、雲林県、屏東県、台東県及び澎湖県の3市5県を管轄しております。高雄に着任後出来るだけ早く管轄地域内の市長・県長に着任のご挨拶を行いたいと考え表敬訪問を開始しました。先ず、当高雄市の陳菊市長への表敬訪問から開始し、これまでに全管轄地域内の市長・県長(県長代理を含む。)に対する表敬を済ませることができました。表敬訪問にあたり複数の市長・県長から台湾、就中南部地域はこれまで長い間日本との関係は非常に深く、日本教育を受けた日本語世代の方々も多く、国民の親日感情も厚く、反日的要素は全くなく、これほど日本を理解している地域は他にはない等々の趣旨の暖かいお言葉を頂戴しております。

高雄に着任して僅か2か月余り、未だ台湾については勉強中ではありますが、もっと台湾を理解し、東日本大震災の際に台湾の皆様から頂いた義援金、支援物資、激励のメッセージに日本国民が感動し、勇気づけられたように台湾の人々の我が国、国民に対する暖かい気持ちが現在の良好な日台関係を支えていることにも感謝しつつ、我が国と台湾の民間における相互理解、友好関係・交流の更なる増進に微力ではありますが皆様方のご理解とご協力をいただきつつ尽くしてまいりたいと思っております。